

第一回日本・米国議員会議派遣参議院代表団報告書

団 長	参議院議員	林 芳正
	同	ツルネ マルティ
	同	室井 邦彦
	同	松村 祥史
同 行	国際部副部	
	長	藤川 哲史
会議要員	参議院参事	松下 和史
同	同	若山 哲朗

第一回日本・米国議員会議は、平成二十年六月十七日（火）、日本国会代表団と米国連邦議会上院対日交流議員団が参加して、米国・ワシントンDCで開催され、日米の議員間で政治問題、経済・社会問題について意見交換が行われた。

日本・米国議員会議は、日本国会代表と米国連邦議会上院代表との間で日米関係に関する共通の課題を議論することを目的とするものである。

本報告書では、第一回日本・米国議員会議開催に至る経緯、会議の日程、会議参加議員、会議の概要、日本国会代表団による記者会見の概要、要人表敬、会談の概要等を報告する。なお、日本・米国議員会議創設に当たっての日本国会と米国連邦議会上院との合意に基づき、参加議員による自由な意見交換を確保するため、会議の内容は非公開とされている。

一、第一回日本・米国議員会議開催に至る経緯

平成十八年六月、ダニエル・イノウエ上院議員（民主党・ハワイ州選出）及びテッド・スティーブンス上院議員（共和党・アラスカ州選出）から日本国会に対して、日米議会間の定期的な交流を立ち上げたいとの提案があった。

米国連邦議会上院の提案を衆参両院がそれぞれ検討した結果、平成十九年、衆参それぞれの議院運営委員会理事会は本件を院の公式行事として実施することを決定し、米国連邦議会上院にその旨通知した。

日本国会での検討と並行して、米国連邦議会は本件交流に関する法的根拠、財政措置等を規定した「米国連邦議会上院対日交流議員団」と題する条項を含む歳出法案

(我が国の予算に相当するもの)の審議を進めた。

平成十九年十二月、同条項を含む「二〇〇八年度包括歳出法案」は、米国連邦議会で可決された後、大統領の署名を得て成立した。これにより、米側では本件交流を実施するための法的根拠等が整った。

同歳出法案の成立を受けて、米国連邦議会上院は、本件交流の実施に関して協議することを目的とした日米議会交流・準備会合の開催を日本国会に対して提案した。

日本国会と米国連邦議会上院との間で開催期日を調整した結果、平成二十年三月二十一日(金)、米国・ホノルルで同準備会合を開催することとなった。同会合には日本側から小坂憲次日本国会代表団団長、林芳正日本国会代表団副団長外二名が、米側からイノウエ上院議員が参加し、第一回日本・米国議員会議の開催時期、場所、議題、会議の進め方等について協議し、第一回会議を六月十五日(日)からの週に米国・ワシントンDCで開催することを決定した。

日米議会交流・準備会合の結果を受けて、同年四月、衆参それぞれの議院運営委員会理事会は、第一回日本・米国議員会議への代表団の公式派遣を決定した。

同年六月十一日(水)、参議院代表団は衆議院代表団と共に日本国会代表団を結成し、打合せ会兼ブリーフィングを開催した。打合せ会兼ブリーフィングでは、互選により団長に中山太郎衆議院議員、副団長に林芳正参議院議員及び小坂憲次衆議院議員を選出するとともに、関係省庁から今回の会議の議題に関するブリーフィングを聴取して、会議に臨むこととなった。

二、日程

六月十六日(月)

ネグロポンテ国務副長官との会談

チェイニー副大統領表敬

アーミテージ元国務副長官との会談

ベーダー元国家安全保障会議アジア部長との会談

今次会議議長ミーティング

米国連邦議会上院対日交流議員団主催歓迎レセプション

六月十七日(火)

第一セッション 政治問題

米国連邦議会上院対日交流議員団主催昼食会

第二セッション 経済・社会問題

米国連邦議会上院対日交流議員団主催送別夕食会

六月十八日（水）

クック氏（政治アナリスト）との懇談朝食会

スコウクロフト元国家安全保障担当大統領補佐官との会談

三、会議参加議員

（一）日本国会代表団

団長	衆議院議員	中山	太郎君
副団長	参議院議員	林	芳正君
同	衆議院議員	小坂	憲次君
	参議院議員	ツルネン	マルテイ君
同		室井	邦彦君
同		松村	祥史君
	衆議院議員	森山	眞弓君
同		大野	功統君
同		谷畑	孝君
同		前原	誠司君
同		武正	公一君
同		上田	勇君

（二）米国連邦議会上院対日交流議員団

団長	ダニエル・イノウエ上院議員
	（民主党・ハワイ州選出）
副団長	テッド・スティーブンス上院議員
	（共和党・アラスカ州選出）
	サッド・コックラン上院議員
	（共和党・ミシシッピ州選出）
	第一セッションのみ参加
	リサ・マコウスキー上院議員
	（共和党・アラスカ州選出）

第一セッションのみ参加

トム・ハーキン上院議員

(民主党・アイオワ州選出)

パティ・マレー上院議員

(民主党・ワシントン州選出)

第二セッションのみ参加

ジャック・リード上院議員

(民主党・ロードアイランド州選出)

第二セッションのみ参加

四、会議の概要

(一) 議長ミーティング

六月十六日(月)午後五時五十五分から六時二十分まで、米国連邦議会議事堂内で議長ミーティングが開催され、日本側から中山太郎日本国会代表団団長、林芳正同副団長及び小坂憲次同副団長が、米側からダニエル・イノウエ米国連邦議会上院対日交流議員団団長(民主党・ハワイ州選出)及びテッド・スティーブンス同副団長(共和党・アラスカ州選出)が出席した(以下、「中山団長」、「林副団長」、「小坂副団長」、「イノウエ団長」、「スティーブンス副団長」とする)。

(二) 米国連邦議会上院対日交流議員団主催歓迎レセプション

六月十六日(月)午後六時二十分から七時三十分まで、米国連邦議会議事堂内のイノウエ団長及びスティーブンス副団長の事務室で、米国連邦議会上院対日交流議員団主催歓迎レセプションが開催された。

米側からはイノウエ団長及びスティーブンス副団長に加えて、ダニエル・アカカ上院議員(民主党・ハワイ州選出)、サッド・コックラン上院議員(共和党・ミシシッピ州選出)、リチャード・ルーガー上院議員(共和党・インディアナ州選出)、トム・ハーキン上院議員(民主党・アイオワ州選出)、リサ・マコウスキー上院議員(共和党・アラスカ州選出)らが出席し、日本国会代表団と交流を深めた。

(三) 第一セッション(政治問題)

第一回日本・米国議員会議は六月十七日(火)、米国連邦議会上院ラッセルビルデ

キング内の商業・科学・運輸委員会室で開催された。

冒頭、イノウエ団長、スティーブンス副団長及び中山団長からそれぞれあいさつがあった。

第一セッションは、午前九時三十五分から午後零時十分まで、日米双方の政治情勢、日米安全保障体制、朝鮮半島情勢、中国情勢、中東情勢など政治問題を議題として開催され、中山団長とイノウエ団長が共同で議事を主宰した。

同セッションでは、日米安全保障体制の現状と課題、普天間基地の移設を含む米軍再編の問題、ミサイル防衛、食糧安全保障、日本人拉致問題及び朝鮮半島の非核化を含む北朝鮮問題への対応、中国情勢などについて率直な意見交換が行われ、参加参議院議員のうち、林副団長、ツルネンマルティ議員及び室井邦彦議員が発言した。

なお、米側から、北朝鮮のテロ支援国家指定解除については慎重に取り扱うことが必要である旨発言があった。

また、日本側から、米軍再編に伴う海兵隊のグアム移転により沖縄の負担が一部軽減されるが、いまだに大きな負担を感じている旨述べたのに対して、米側から、外国の軍隊が国内に駐留することの負担は我々も理解できるが、アジアの安定のためにそのような問題についてお互いに理解を求めていくことが必要である旨発言があった。

(四) 米国連邦議会上院対日交流議員団主催昼食会

米国連邦議会上院対日交流議員団主催昼食会は、午後零時三十分から午後一時三十分まで、米国連邦議会図書館内の議員室で開催された。

同昼食会にはイノウエ団長及びスティーブンス副団長に加えて、ジャック・リード上院議員（民主党・ロードアイランド州選出）が出席し、日本国会代表団と交流を深めた。

(五) 日本国会代表団の上院本会議場訪問

昼食会終了後、日本国会代表団は上院本会議場を訪問した。

ハリー・リード上院民主党院内総務（ネヴァダ州選出）が「米国連邦議会上院は日本国会代表団をお迎えする機会を得た。イノウエ及びスティーブンス両上院議員は長年にわたって日本国会との関係強化に努め、大変な成功を収められた。本会議場内の上院議員の方々には日本国会代表団にごあいさついただきたい。」と発言した後、日本国会代表団が上院本会議場フロア内に招き入れられた。同代表団は、場内にいたロバート・バード上院仮議長（民主党・ウェストヴァージニア州選出）、ジェフ・ピン

ガマン上院議員（民主党・ニューメキシコ州選出）、サッド・コックラン上院議員（共和党・ミシシッピ州選出）、エミー・クロブッシャー上院議員（民主党・ミネソタ州選出）、メアリー・ランドリュウ上院議員（民主党・ルイジアナ州選出）、ジャック・リード上院議員（民主党・ロードアイランド州選出）など多数の上院議員と交流する機会を得た。

これは、イノウエ団長及びスティーブンス副団長による特別な取り計らいによるものであり、日本の国会議員が上院本会議場フロア内に招かれたのは初めてのことと思われる。

（六）第二セッション（経済・社会問題）

第二セッションは、午後三時十五分から五時三十分まで、日米経済関係、世界経済、気候変動問題など経済・社会問題を議題として開催され、林副団長とスティーブンス副団長が共同で議事を主宰した。

同セッションでは、米国産牛肉の対日輸出問題、地球温暖化問題への対応、代替エネルギー、燃料価格の高騰への対応方法、サブプライムローン問題（低所得者等の信用力の低い層に対する住宅ローン）等について率直な意見交換が行われ、参加参議院議員のうち、林副団長、ツルネンマルティ議員、松村祥史議員が発言した。

第二セッション終了後、中山団長及びイノウエ団長からそれぞれあいさつがあった。また、次回会議を来年東京で開催することにつき出席者の合意を得た。

（七）米国連邦議会上院対日交流議員団主催送別夕食会

米国連邦議会上院対日交流議員団主催送別夕食会は、午後六時から七時三十分まで米国連邦議会議事堂内のマンズフィールド・ルームで開催された。

米側からは、イノウエ団長及びスティーブンス副団長に加えて、トム・ハーキン上院議員（民主党・アイオワ州選出）及びリサ・マコウスキー上院議員（共和党・アラスカ州選出）が出席し、日本国会代表団と交流を深めた。

五、日本国会代表団による記者会見

日本国会代表団による邦人記者に対する記者会見は、六月十七日（火）午後八時十分から八時四十分まで、ナショナル・プレス・クラブで開催され、中山団長、林副団長、小坂副団長、ツルネンマルティ参議院議員、前原誠司衆議院議員及び上田勇衆議

院議員が出席した。

冒頭、中山団長から今次会議は充実した内容であったとの発言があった後、小坂副団長から今次会議開催に至る経緯及び第一セッションの概要について、林副団長から第二セッションの概要についてそれぞれ説明があった。

その後、今次会議の意義、北朝鮮のテロ支援国家指定に関するやりとり、普天間基地移転を含む米軍再編問題に関するやりとり、日本・米国議員会議の目標等について質疑応答が行われた。

六、要人表敬、会談等

日本国会代表団は今次会議の機会を利用して、チェイニー副大統領を表敬したほか、複数の要人と会談し、米国の内政・外政に関する知見を深めた。その概要は以下のとおりである。

(一) チェイニー副大統領表敬

六月十六日(月)午後一時三十分から一時五十分まで、日本国会代表団は米国連邦議会上院議長を兼務するディック・チェイニー副大統領を表敬した。表敬はホワイトハウス内で行われ、イノウエ団長及びスティーブンス副団長が同席した。

表敬冒頭、チェイニー副大統領は、日本・米国議員会議は種々の懸案について意見交換をする重要なフォーラムであると述べて今次会議開催を高く評価するとともに、米国にとって日本との二国間関係は非常に重要であり、日本国会代表団のワシントン訪問を歓迎する旨発言した。

日本国会代表団は、米軍再編の問題、北朝鮮による日本人拉致問題、朝鮮半島の非核化等について、チェイニー副大統領と意見交換を行った。

(二) ネグロポンテ国務副長官との会談

六月十六日(月)午前十一時から十一時四十分まで、日本国会代表団はネグロポンテ国務副長官と会談した。会談は国務省内で行われた。

ネグロポンテ国務副長官は、日本・米国議員会議の設立を日米間の対話の重要な枠組みであると高く評価した。

日本国会代表団は、中国の台頭と日米同盟、北朝鮮による日本人拉致問題、朝鮮半島の非核化、イランの核開発疑惑等について、ネグロポンテ国務副長官と意見交換を

行った。

(三) アーミテージ元国務副長官との会談

六月十六日(月)午後二時二十分から三時二十分まで、日本国会代表団はリチャード・アーミテージ元国務副長官と会談した。会談は同元国務副長官が代表を務めるアーミテージ・インターナショナルの事務所で行われた。

アーミテージ元国務副長官はブッシュ現大統領の下で同職を務めた。現在は二〇〇八年大統領選挙共和党候補者となる予定のジョン・マケイン上院議員(アリゾナ州選出)の外交政策・アジア政策のアドバイザーを務めている。

日本国会代表団は、米軍再編の問題、二〇〇八年大統領選挙の共和党・民主党候補者の政策の相違、北朝鮮による日本人拉致問題、朝鮮半島の非核化問題、中国情勢等について、アーミテージ元国務副長官と意見交換を行った。

(四) ベーダー元国家安全保障会議アジア部長との会談

六月十六日(月)午後三時五十分から四時三十五分まで、日本国会代表団はジェフリー・ベーダー元国家安全保障会議アジア部長と会談した。会談はブルッキングス研究所で行われた。

ベーダー元国家安全保障会議アジア部長はクリントン前大統領の下で同職を務めた。現在は二〇〇八年大統領選挙民主党候補者となる予定のバラク・オバマ上院議員(イリノイ州選出)の外交政策・アジア政策のアドバイザーを務めている。

日本国会代表団は、オバマ上院議員の対東アジア政策、北朝鮮による日本人拉致問題、朝鮮半島の非核化問題、中国情勢、地球温暖化問題等について、ベーダー元国家安全保障会議アジア部長と意見交換を行った。

(五) スコウクロフト元国家安全保障担当大統領補佐官との会談

六月十八日(水)午前九時四十五分から十時十五分まで、日本国会代表団はブレント・スコウクロフト元国家安全保障担当大統領補佐官と会談した。会談は同元国家安全保障担当大統領補佐官が代表を務めるスコウクロフト・グループの事務所で行われた。

スコウクロフト元国家安全保障担当大統領補佐官は、フォード元大統領及びブッシュ元大統領の下で同職を務めた。

日本国会代表団は、二〇〇八年米国大統領選挙の見通し、中国情勢、米国とロシア

との関係等について、スコウクロフト元国家安全保障担当大統領補佐官と意見交換を行った。

(六) クック氏(政治アナリスト)との朝食懇談会

六月十八日(水)午前八時から九時十五分まで、日本国会代表団は政治アナリストのチャールズ・クック氏を招いて朝食懇談会を開催した。

クック氏は、共和党・民主党のいずれにも偏らない中立的立場から米国選挙の情勢、政治に関する分析を行っている。同氏は米国の主要テレビ番組に頻繁に出演し、主要新聞紙も同氏の分析・発言等を引用することが多い。

日本国会代表団は、二〇〇八年大統領選挙の見通し、同選挙候補者となる予定であるジョン・マケイン上院議員(共和党・アリゾナ州選出)及びバラク・オバマ上院議員(民主党・イリノイ州選出)それぞれの政策等について、クック氏から分析を聴取するとともに意見交換を行った。

七、終わりに

日米両国は同盟国であって、緊密に協力しながら国際的な諸課題に対処する関係にあるにもかかわらず、日本・米国議員会議の創設に至るまで日米議会間の公式な交流は存在しなかった。今般、日本国会と米国連邦議会上院との間での公式な交流である今次会議の開催に至ったことは非常に意義深いものである。日本・米国議員会議は日米間の対話の場として、将来にわたって重要な役割を担っていくものと考えられる。

今次会議では、日米両国の参加議員が政治問題、経済・社会問題全般にわたって極めて率直な意見交換を行い、多くの分野で認識を共有するなど大きな成功を収めた。

また、今次会議に参加した参議院代表団は、会議の議論に積極的に参加したのみならず、関連行事でも多数の米国連邦議会上院議員と交流して日米議会間の、ひいては日米間の関係強化に貢献し、その任務を十分に果たすことができた。

最後に、今次会議を主催した米国連邦議会上院関係各位の御尽力並びに在米国日本国大使館及び在シカゴ日本国総領事館関係者の御協力に心から御礼申し上げ、本報告を終える。